

# ぽーとせたがやの「今」と「これから」

1・ぽーとって、どんなところ？

地域障害者相談支援センターぽーと（以下、「ぽーと」）は、障害のある方やご家族が、障害があることにより希望する生活を送ることができず、困っているときに相談することができる窓口です。障害の種類、年齢、相談内容、

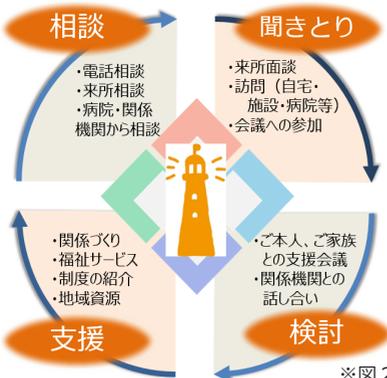


※図1

障害者手帳の有無にかかわらず、困っている方の相談の入り口として幅広い相談をうけています。ぽーとは世田谷区が世田谷区内5地域それぞれに1か所ずつ設置し、世田谷ボランティア協会では世田谷地域の相談業務を受託し、事業活動を行っています（図1）。

ぽーとでは、幅広い年代、障害の方からご相談があります。「仕事をしたい」「日中、通うところを探したい」などの具体的な相談から「この先の生活に関して不安（住まい、お金のこと等）があるが、どうすれば良いか分からない。」などの、どこに何から相談をすればよいのか分からないといった相談もあります。ぽーとでは、皆さまから丁寧な『聞きとり』を行い、一人一人の希望に近づくために、どのような制度や資源が利用できるかを一緒に考えていきます。ま

## ぽーとの相談



※図2

た、困りごとの整理も一緒に行っています。皆さまから聞き取った希望や困りごとは、地域の関係機関からの助言も受け丁寧に『検討』し、『支援』（福祉サービス等）につなげていきます。（図2）

また、区や地域の関係機関からの相談も受けており、依頼先は、障害分野だけにとどまらず、高齢分野（あんしんすこやかセンター・ケアマネ等）、若者支援（メルクマール・若者サポートステーション）、生活困窮支援機関（ぷらっ



### 3・ぼーとせたがやの相談状況

今年度の相談をデータで見ると、こんな様子です。

#### ①相談人数

2021年4月～9月までに、187人の方からの相談をいただいています。昨年度1年間にあった相談が222人のため、昨年度に比べ1.5倍以上スピードで相談をうけている計算となります。

相談が増えている要因の一つとして新型コロナウイルスの影響が考えられます。コロナによって仕事が無くなり相談につながった方、先のないコロナの状況に対する不安から相談につながった方など、影響は少なくないと感じています。

#### ②相談内容

主な相談内容としては、大きく3つに大別されます。

・今後の生活について

↓漠然とした不安…どこに何を相談したらよいか、整理できない気持ち

↓住まいの相談…親亡き後の住ま

い、一人暮らしに向けた練習など  
↓仕事・収入…仕事に就けない、今後どうすれば良いかなど

・退院後の生活について

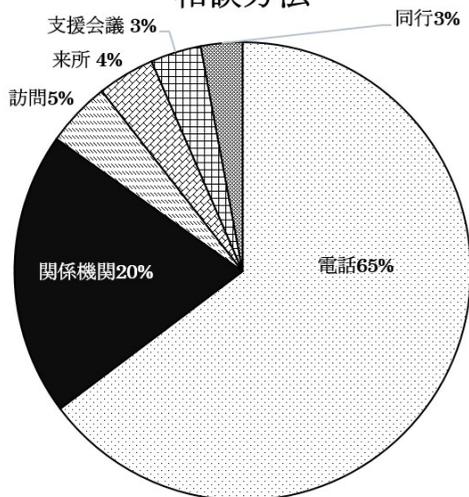
↓相談者の退院後どうしたらよいか先行きの不安や、一人暮らしの不安

↓退院後の住まい…グループホームの検討など

・日中の通い先、居場所

↓日中どうしたらよいか分からない…安心できる場所、相談できる

#### 相談方法



場所  
↓仕事に就く前に通える所があるか？

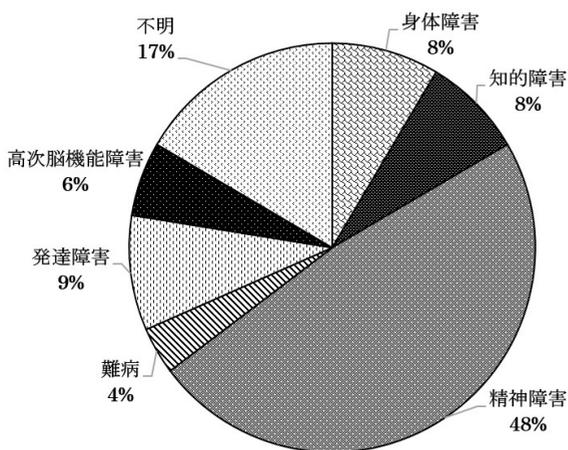
#### ③相談方法

相談方法としては、全体の6割以上が電話の相談となつています。電話は皆さんのペースで好きな時に相談できるものなので多い傾向にあります。関係機関からの相談依頼や打ち合わせも全体の2割を占めています。

#### ④障害種別

様々な障害の方からの相談を受けています。全体の約半数が精神障害の方からの相談となっており、最近の傾向として、診断や障害者手帳などがない「不明」の方からの相談も増えてい

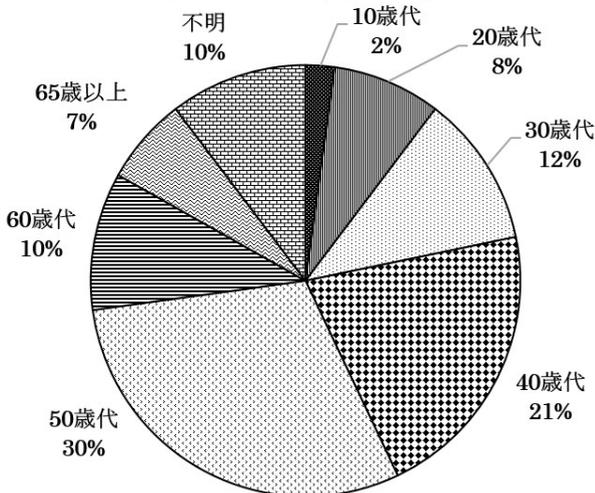
### 障害種別内訳



#### ⑤相談者の年代

幅広い年代の方からの相談をうけています。特色としては、全体の7割近くが40才代以上の方からの相談であることです。親も歳を重ね、支援を受けなければ生活が継続できなくなったことがきっかけで相談につながるケースが増えています。

### 相談者の年代内訳



#### 4・ぽーとの毎日

ぽーとせたがやは月曜から土曜まで開いています。ぽーとせたがやの一日を見てみましょう。  
朝、8時半の開室までに、ぽーと相談員が出勤します。フロアの窓を開けて換気をしながら、テーブルや電話などを消毒していきます。そして、相談室の小さな植物



イラスト：NOGUCHI MINORI

たちに水をあげて、来談する方を迎える準備をします。8時半になると、開室を待つていたように電話が鳴ります。この時間帯は毎日ぼーとに連絡をくださる方々の電話が多いです。

ぼーと相談員はそれぞれの予定で動いています。ある相談員は面談室での面談、別の相談員は自宅へ訪問してお話を伺い、さらに他の相談員はハローワークへ行ってご本人と一緒に就労相談をしたり、グループホームの見学と一緒に

に出かけたりします。こんなわけでは中では慌ただしいですが、その間は、事務スタッフが事務所を守り、事務を進めています。

17時、相談終了の時間です。終礼で締めくくりをしてぼーとの一日が終わっていきまます。

### 5・ぼーと世田谷のコロナ前の活動

新型コロナウイルス感染症が流行する以前、ぼーとせたがやでは日々の相談業務のほかにも色々な取り組みで地域の方とのつながりを作ってきました。いくつかご紹介いたします。

#### ▼いっしょに食べよ

毎月1回17時半から、手作りの夕食を食べる会です。食べにきてくださるのは、地域に住むご高齢の方、小さなお子さんがいるご家庭、障害をお持ちの方などさまざま。夜間にひとりであるのが大変な方は迎えに行きます。

食事づくりは、ぼーとの職員だけではとてもできませんから、地



イラスト：NOGUCHI MINORI

域でボランティア活動をしている方々にご協力いただきます。食材は商店街へ買いに行きます。ある日のメニューは、鶏の米こうじ焼き、マカロニサラダ、野菜スープにご飯。栄養もばっちりです。

毎回20人ほどで賑やかに食事をします。子供たちが笑顔でフロアを走り回る姿を、おじいちゃんたちが目を細めて見守る光景が印象的な、ありそうで無い夕食会です。

#### ▼ごきんじよ市

毎年冬に三軒茶屋ふれあい広場で開催するおまつりです。地域で

暮らすひとたちが、年齢や立場や障害のありなしに関係なく集い、つながるきっかけを見つける場になることを目指して開催します。会場では地域の商店やレストラン、福祉事業所などが軒を並べて自慢の商品を販売。フリーマーケットやステージでのダンス発表もあります。スタンプラリーでは色々な人が自然とふれあうようなシカケがあります。

ごきんじよ市は、ぼーと職員だけでなく、ぼーとの利用者さん、商店街の方々、障害や高齢の福祉事業所とその利用者さん、学生さ



イラスト：NOGUCHI MINORI

ん、ボランティアの方など大勢の協力が集結して作り上げられています。その大きな力と多様さが2000人を超える来場者を惹きつけているのでしょう。

## 6・ぼーと世田谷ユーザーの声

ぼーとは「支援」する側だけではなく、ユーザーの方々にも支えられていきます。毎日、朝に昼に夕に声を聴くことで落ち着くと仰る方は「ぼーとに出会って明るくなったと思う。精神的な安定。ぼーとを表す言葉は、仲良し・落ち着き・安心」とのこと。

ボランティア活動にも参加くださる方は「ぼーとは、利用する際に受給者証などは必要なく、担当以外の人も対応してくれる相談しやすいところ」、「医療でも看護でもなく、受給者証が必要な福祉の場でもないところで、枠を感じずに自分のことを話せる、自由なところだと思っています」、「相談室の雰囲気も好き、ときに自宅を訪

問してくれるような融通が利くところもいいと思う」

## 7・ぼーとのこれから

新型コロナウイルスの蔓延による様々な生活への影響、障害のある方と称され社会とつながることができなかつた方などの相談を受ける中で、私たちに今できることは何か、そして『これから一緒に』を常に問いかけながら、皆さまのお話を聞いている日々です。

ぼーとは困りごとを解決できる万全な手段をもっているわけではありません。しかし、私たちの強みは、皆さまと共に過ごすことができること。同じせたがやの地域で。そしていつでも、相談できるつながりを持つていることです。これかまずつと、ぼーとせたがやをよろしくお願ひいたします。いつでもご連絡お待ちしております。